

2013年度 認知言語学セミナー

言語相対性と認知言語学

—文化とことばからこころに迫る—

井上京子

kinoue@hc.st.keio.ac.jp

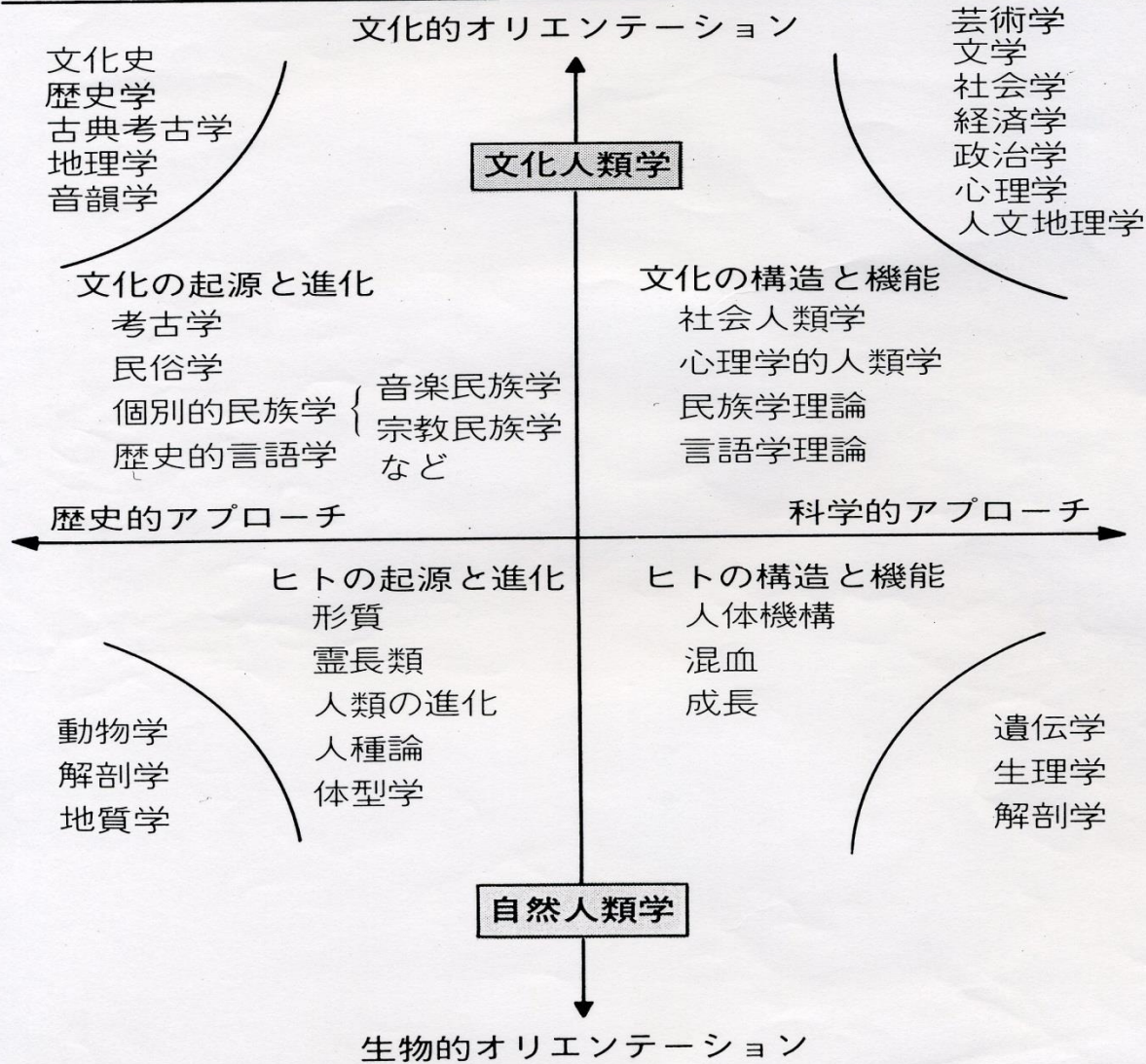
2013年 9月 20日(金)

京都外国語大学にて

第1講義 「相対性」の研究の系譜

1. フランツ・ボアズの「文化相対説」
2. サピア-ウォーフ仮説の出現
3. バーリン&ケイの色彩語彙研究の衝撃
4. バーリンの助数詞(類別詞)研究
5. レヴィ=ストロースらの親族名称研究
6. コンクリンらの民俗分類研究
7. レヴィンソンらの空間認知研究
8. G. レイコフらのメタファ研究
9. R. レイコフ、井出らのポライトネス研究
10. エヴェレットのピダハンエスノグラフィー考察

1 1-1 人類学の諸分野



[Kluckhohn と Hoebel による：米山, 1968]

「文化」の持つ意味

- Edward Tylor
「知識、信仰、芸術、道徳、法、慣習および社会の成員である人間によって習得されたその他の能力や習慣を包含する複合的全体である」
- James Peacock
「特定の集団のメンバーによって**学習**された**自明**でかつきわめて影響力のある**認識**の仕方と**規則**の体系」
- 斗鬼正一
「人が生きることを阻害するものに対する対抗手段として作り出したすべてのもの」

博物学と人類学の間

- ファーストコンタクト

- 珍品陳列室を源流とする博物学
- 室内派 vs. 野外派

チャールズ・ダーウィン

- 文化相対主義

- 文化を序列化しない
- 文化の基準自体が客観的ではない

フランツ・ボアズ

文化相対主義＝人類学者の倫理

- 自民族中心主義 ⇔ 文化相対主義
- ボアズ学派、R. ベネディクトによって確立
- 「あらゆる社会に共通する単一の価値尺度というものは存在しない。人間の諸経験の持つ意味の正しい解釈は、それを経験する人々の文化的背景、行動の全体的な準拠枠、他の慣行や社会規範に照らしてしか行えない、なぜなら、それらの諸要因が人間の知覚や価値判断に大きな影響を及ぼすからである。」

文化相対主義(定義の続き)

(江淵一公 1994: 671-2)

- 人間文化の多様性＝異質性の認知、容認を基礎とするもの
- 人類文化の研究の深化、そして異文化間相互理解の促進に対する人類学の偉大な貢献
- いかなる風習についても、その文脈ないし背景から切り離して優劣・善悪の評価を下すべきではない
 - － 例：嬰兒殺し

文化相対主義への批判

その1: 石田英一郎 1976

- もし文化があくまで相対的なものだとするならば、人類に普遍の価値の基準というものもなければ、また、およそ異民族同士が相互に理解し共感しうるための、共通の公分母的な基準も存在しえないことになる
- 人類文化には、多様性＝相対性と並んで、人類としての一様性＝普遍性が存在する

文化相対主義への批判

その2: 行動派人類学・急進派人類学

- 研究対象から一定の距離を置いた客観的な立場というものが本当に可能か？
- 社会的な争点となっているような問題に対して沈黙を守ることが果たして中立と言えるのか？
- “中立的態度”が結局は強者に加担し、現状維持を助けているのではないか？

サピア - ウォーフ仮説

Sapir-Whorf hypothesis

- 「言語が異なれば、その話者が持つ外界認識も異なる」とする考え
- 強い仮説(言語決定論)
 - 言語が思考を(完全に)決定する
 - はじめに言葉あるがゆえに思考がある
- 弱い仮説
 - 言語が特定の範囲において思考に影響を与える
 - 現実そのものが相対的なのではなく、そのどこに力点を置き、それをどうカテゴリー化するか、言い換えれば、現実世界のどの側面が特に目立ちやすい形で呈示されるかという点で、各言語、各文化の間に相違が認められる (Lee 1959)

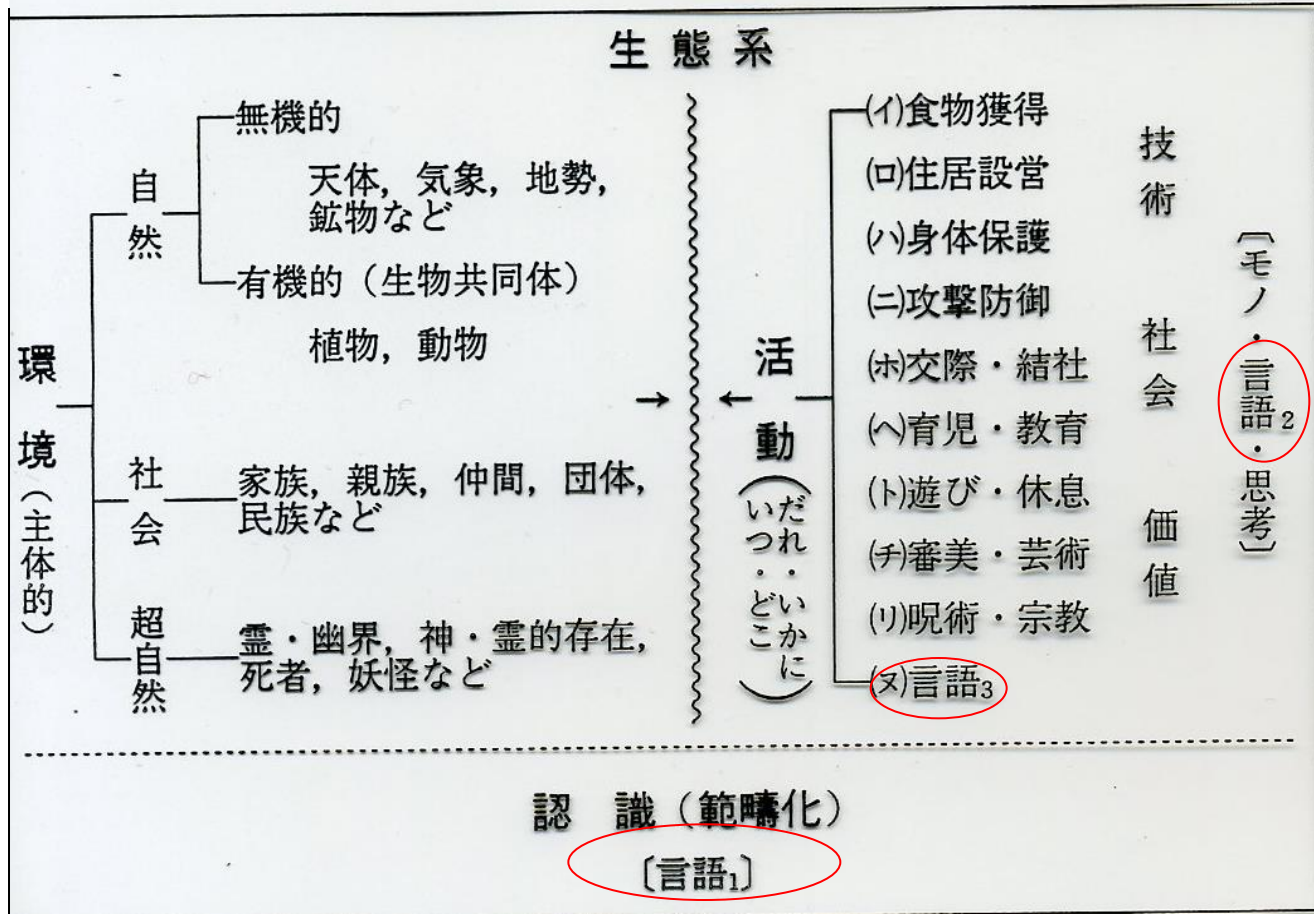
文化人類学と言語研究

- 言語とそれを取りまく「言語外現実」との関係
をあつかう**言語人類学**
- 言語外現実の社会的側面と言語との関係を
あつかう**社会言語学**
- 「文化」の中の3つの言語（宮岡1996）
 - (1) **カテゴリー化**の言語
 - (2) **伝達**の言語
 - (3) **直接機能性**の言語

「文化」の中の3つの言語

『言語人類学を学ぶ人のために』(1996: 9)

第1章 文化のしくみと言語のはたらき 9



〈図1〉 文化の基本的なしくみ

認知科学と言語研究

- 「科学」の中の3つのカテゴリー(三宅 2004)
 - (1) 自然界における特定可能な対象の因果関係を記述するもの
 - (2) 因果関係までは証明できないが相互作用は推定できるもの
 - (3) 対象とその対象を規定している観察者との関係が問題になるもの



認知科学 = 人間や社会を対象とする学問



認知言語学

認知言語学とは

- 言語を認知という枠組みの中で捉えなおそうとする学問
- 認知や身体性が言語構造や言語使用に深く浸透していると考ええる (Lakoff 1987, 山梨2001)

問題意識

- 言語は人の経験する世界をどのように作り上げているのか
 - そうした世界はどんな特性を持っているのか
- ⇒ 我々人間が言語によって現実を理解し、行動する仕組みを明らかにする試み

言語₁：言語による世界のカテゴリー化

普遍的な事象を言語で切り分けるパターンの研究

- 色彩基礎語彙
- 親族名称
- 空間認知と言語表現
 - 左右・東西南北
- 名詞分類辞
 - 助数詞(つ、個、本、枚 etc...)
- 身体部位表現
 - 身体部位のメタファー

基本色彩語彙 Basic Color Terms

(Berlin & Kay 1969より)

「健康な人ならどんな社会の文化に育とうとも750万もの色彩の違いを見出すことができる」(Evans 1948)

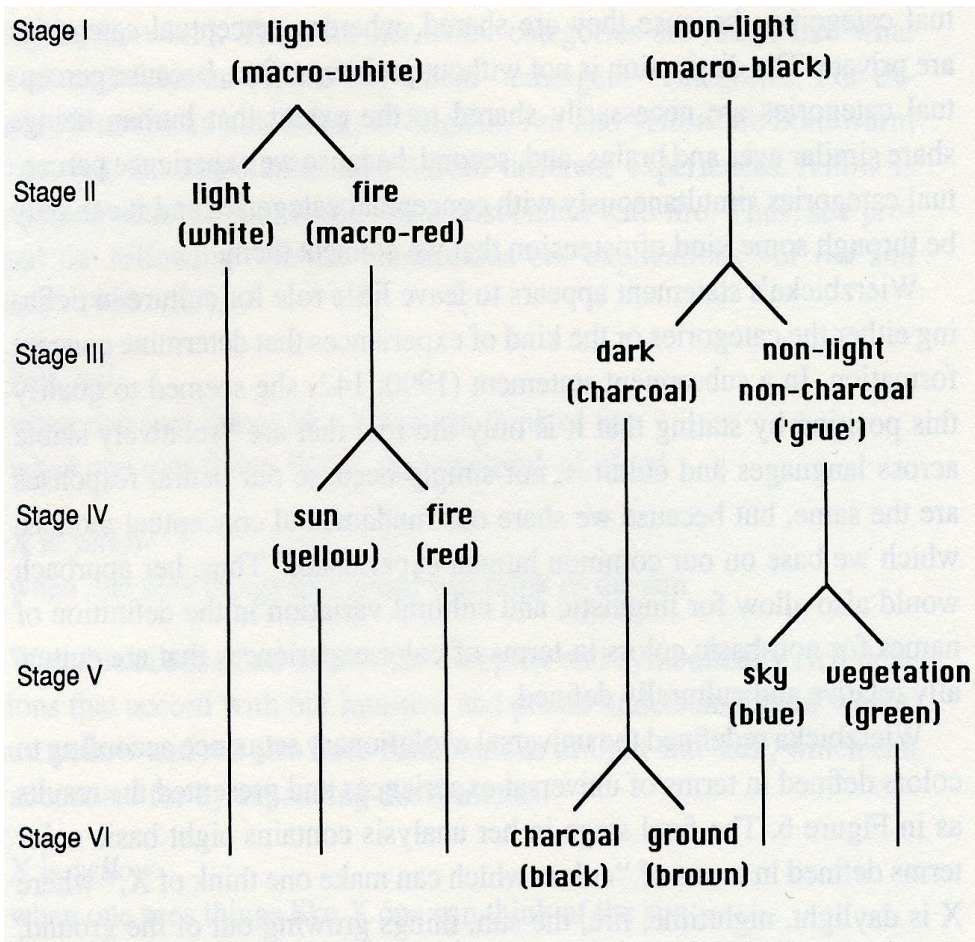
TABLE 8-1

	Language Type			
	1	2	3	4
Basic color terms	white black	< red	< green/blue yellow	< yellow green/blue
Example	Dugum Dani	Pomo	Somali	Hopi

「色彩の語彙化は、ある物理的刺激的の文化分類である」(Conklin 1973)

TABLE 8-2

	Language Type						
	1	2	3	4	5	6	7
Basic color terms	white black	< red	< green/blue yellow	< yellow green/blue	< green blue	< brown	< purple pink orange gray
Number of color terms	2	3	4	5	6	7	8-11



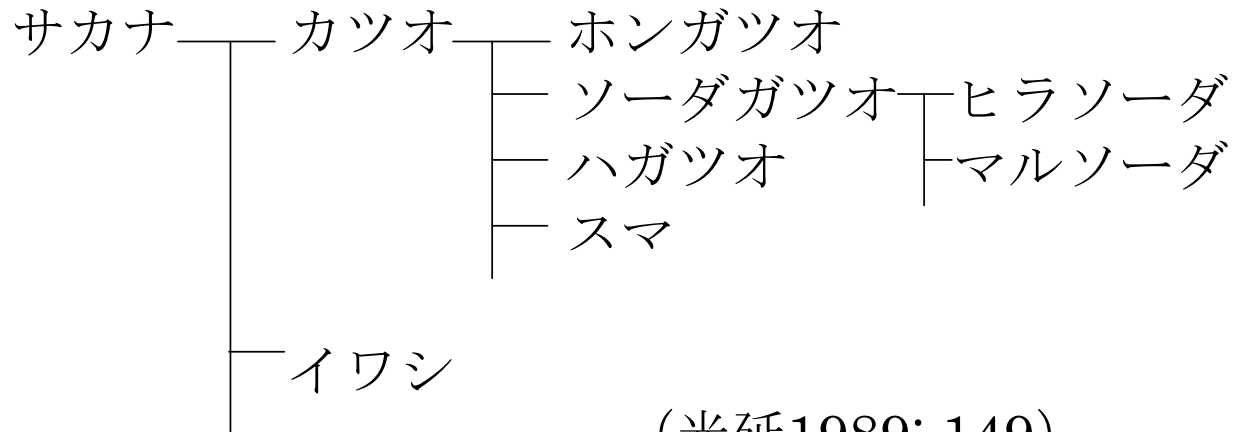
Stage VII ["mixed colors" added to those above]

FIGURE 6. The universal evolutionary sequence of basic color terms. From Anna Wierzbicka, "The Meaning of Color Terms: Semantics, Culture, and Cognition," *Cognitive Linguistics* 1 (1990): 144. Reprinted by permission of Mouton de Gruyter and Anna Wierzbicka.

民俗分類の例

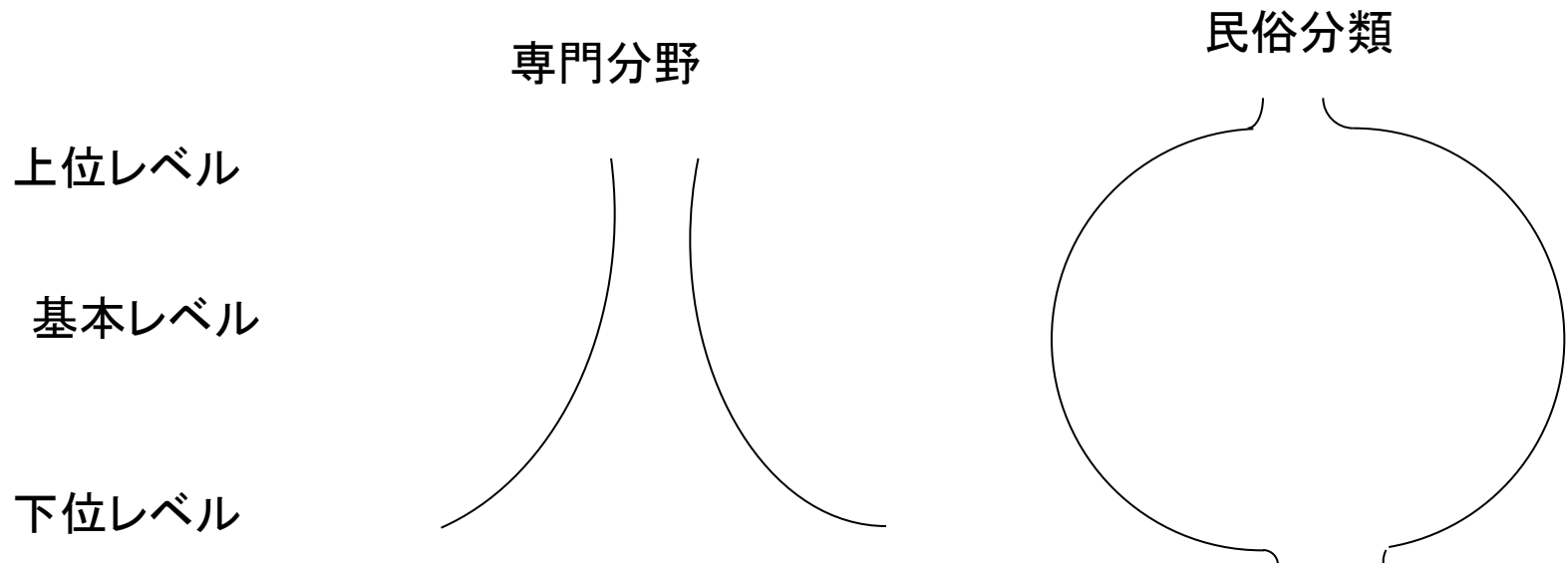
Rank 0	Rank 1	Rank 2	Rank 3	Rank 4
unique beginner	life form	generic	specific	varietal

始発点	生活形態	属	種	変種
-----	------	---	---	----



(光延1989: 149)

カテゴリー化のレベル (大堀 2002)



- ヒトのカテゴリー化は「基本レベル」を軸に行われる
- 基本語彙は「基本レベル」に集中しており、上位や下位のレベルは欠落があったり派生語彙だったりするが、基本レベルの周囲は整った体系をなす。

人間は空間をどう認識しているのか ～言語への組み込まれ方の違い～

- 空間情報：
 - 水平面 egocentric 左右/ allocentric 東西南北
- 移動情報：
 - verb framed 動詞枠付け型/satellite 衛星枠付け型
- 言語発達上見られる注視点の違い
 - on/in, op/aan, 被る/着る/履く
- アフォーダンス

左右と東西南北の認識・表現

(井上1998)

- 空間をことばで切り分ける方法

(1) 相対的指示枠

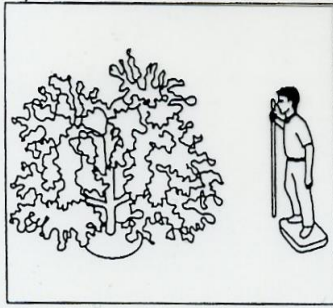
遠藤はゴールの左隅にボールを蹴り込んだ

視点 地 図

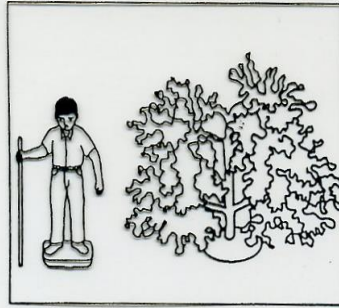
(2) 絶対的指示枠

渡月橋は京都御所の西側です

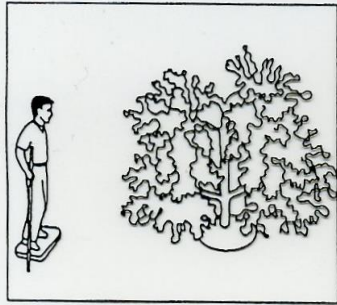
図 地



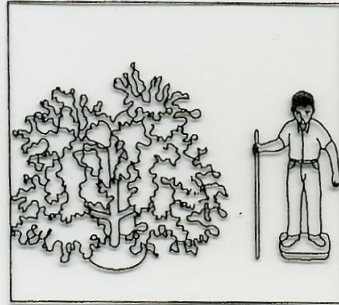
[絵 D]



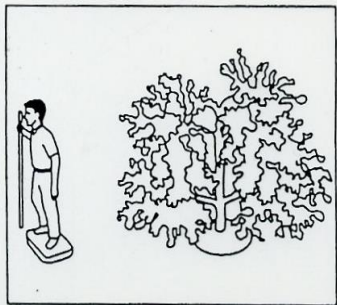
[絵 A]



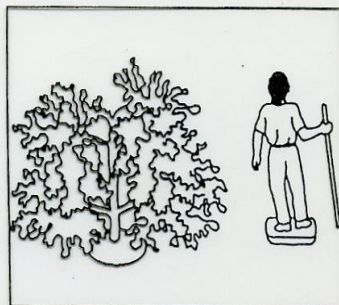
[絵 E]



[絵 B]



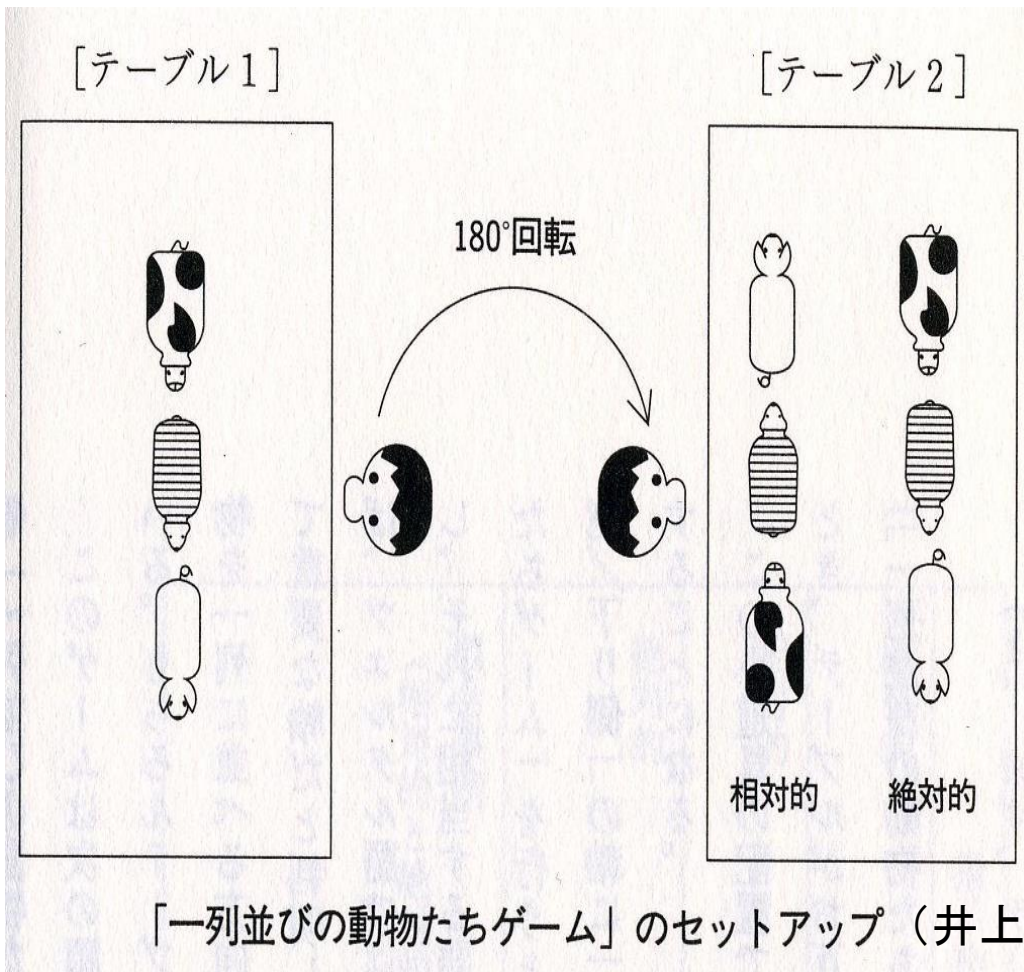
[絵 F]



[絵 C]

(井上1998)

- 「男の人」と「木」との位置関係を説明すると...
- AとBの違いは？
- DとEの違いは？
- BとCの違いは？
- EとFの違いは？



- 「一列並びの動物たち」ゲーム
- テーブル1で覚えた動物たちの並び方をテーブル2に再現すると...？

相対性を強く主張する言語研究例

Pirahã ピダハンのエスノグラフィ

Daniel L. Everett

- 直接体験のみを語ることに文化的価値を置く
人間集団ピダハン
- 他言語と比較しても非常に特異な言語特徴は、この文化的背景に基づく
 - ピダハン語には再帰性 recursion がない
 - 入れ子構造がない
 - 文の無限生成ができない
 - ピダハン語には受動態構造がない etc...

第2講義 言語における「相対性」の研究 ～ 認知言語学研究と「相対性」との関わり

1. トマセロ(心理学系)の進化人類学
2. タルミーの空間認知
3. スロービンの言語習得
4. カテゴリー、メタファ、ジェスチャ、その他

再び！ サピア - ウォーフ仮説

Sapir-Whorf hypothesis

- 「言語が異なれば、その話者が持つ外界認識も異なる」とする考え
- 強い仮説（言語決定論）
 - 言語が思考を（完全に）決定する
 - はじめに言葉あるがゆえに思考がある
- 弱い仮説（言語相対性）
 - 言語が特定の範囲において思考に影響を与える
 - 現実そのものが相対的なのではなく、そのどこに力点を置き、それをどうカテゴリー化するか、言い換えれば、現実世界のどの側面が特に目立ちやすい形で呈示されるかという点で、各言語、各文化の間に相違が認められる (Lee 1959)

人類の進化と言語の研究

- 1886年 パリ言語学会則第2条「本学会は言語起源および普遍言語構築に関するやりとりを一切認めない」
- 1996年 『言語進化の国際会議』EVOLANG@エジンバラ大学
- 2010年6月 『進化言語学の構築』関西言語学会第35回大会シンポジウム@京都外国語大学
- 2012年3月 EVOLANG第9回大会@京都

進化研究の方向性=>普遍性の追究

- トマセロの進化人類学
 - 累進的な文化進化 cumulative cultural evolution
 - 関係的カテゴリーの理解がヒトに固有の認知能力につながる
- 岡ノ谷の進化言語学
 - 言語の起源と進化を生物学的に扱う方法論
 - 真に人間と人間言語に固有である部分を極力絞り込む

言語は普遍か、多様か

- 多様性と普遍性に関する議論

- 旧約聖書のバビロンの塔

- 「世界中にある言語の数だけ文法がある」

- (12c. P. Élie --フランスの言語学者)

- 「偶発的な差異はあっても、文法はその本質においては全ての言語において同じである」

- (13c. F. Bacon --イギリスの哲学者)

人間言語の普遍特性

(中島etc. 1994)

- 恣意的な記号 (F. de Saussure)
- プラーグ学派による言語類型化 (N. S. Trubetzkoy, R. Jakobson など)
 - 摩擦音 [f, s] があって、閉鎖音 [p, t] のない言語はない (ただしその逆はある) など
 - 習得順序は閉鎖音→摩擦音、失語は逆行
- 言語の構造依存的特性 (N. Chomsky)
 - 言語は音、形態素、語、句などという順次大きい単位からなっていて、言語現象はこれらの単位によって述べられる

普遍特性の枠組み

	全ての言語に当てはまる(絶対的)	多数の言語に当てはまる(統計的)
含意法則 「もしXならばY」		
非含意法則		

色彩語、音声、意味論、歴史変化などに関する言語普遍特性の研究が盛ん

文法の普遍性をさぐる

その1: 多くの言語データを収集し、具体的な分析方法によって普遍性をさぐる方法

例: グリーンバーグなど

その2: 少数の言語を深く掘り下げて抽象的な構造分析を行い、人間の生得的言語能力に普遍性の礎を見る方法

例: チョムスキーなど

その1: 言語類型論 (Typology)

- グリーンバーグの普遍特性45 (N=30)
 - 基本語順
 - 統語論
 - 形態論
- ホーキングズの普遍特性20 (N=300+)
 - 2つの分類基準 (1)OVであるか、動詞が先頭か
(2)前置詞言語か、後置詞言語か
 - 含意法則の形式

その2: 構造分析による普遍文法 (Universal Grammar) チョムスキー派

- 個々の言語の話し手は個別文法(個々の言語を処理する装置)をもっている
- 人間には生まれながらにして備わっている能力(普遍文法)があり、それはどの言語でも処理できる汎用装置である。
- 個別文法として使うためには、微調整が必要。
- これが媒介変数である。(Xバー理論)

意味の普遍性をさぐる

背景

- 1960年代以降の認知科学の発展
- 人間の知識全般にわたる普遍論
- 初めに思考があってその上に言語が成立？
- 意味の普遍性をさぐる研究対象：
 - 人間の神経生理学的機能に多分に制約されていると考えられる領域、たとえば.....

意味の普遍性をさぐる研究対象例

- 色覚、冷暖感覚、味覚、音感、喜怒哀楽などに関する語彙
- 人間の認知能力の普遍的傾向に関わる日常的な事物(動植物、親族、身体部位など)に関する語彙
- 個別文化の恣意性、相対性を超えた普遍性が見られる概念(高低、長短、左右、遠近)に関わる語彙

心理言語学の比較言語研究

- 1950年代：行動言語学
- 1960年代：生成文法学派
- 1953年：用語 “psycholinguistic” が登場
- Southwest Project in Comparative Psycholinguistics: focusing primarily on the **Whorf hypothesis** through a crosslinguistic experimental study of speakers of at least four languages of the American Southwest (Guo et al eds. 2009: 1) ← Susan Ervin, D. Slobin, J. Gumperz, D. Hymes, etc.in UCB

Slobinらの言語習得研究

- Although his ultimate interest and goal was **universal patterns** of language, he focused his attention and energy on **variation and change** (ibid. p.3)

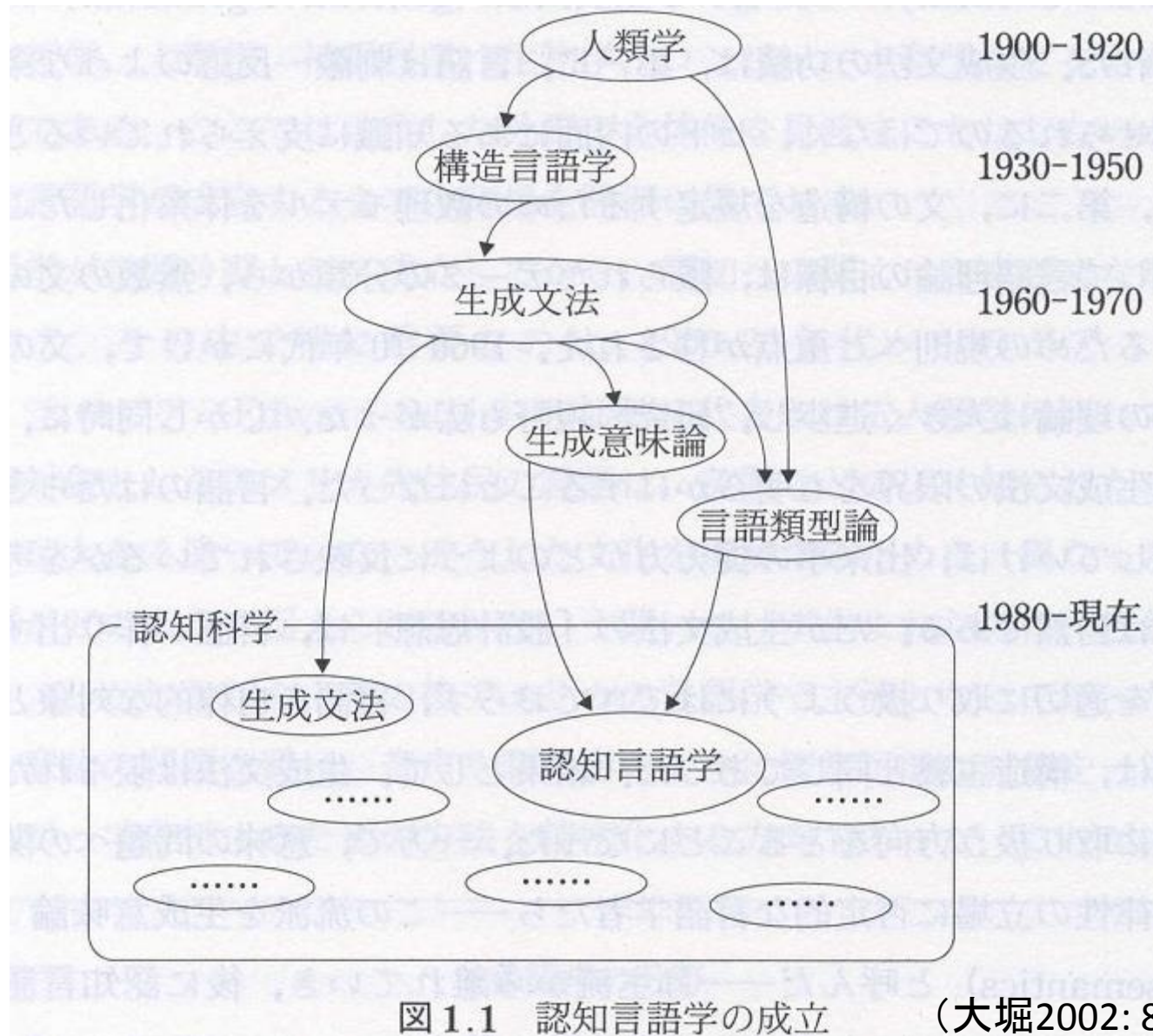


図 1.1 認知言語学の成立 (大堀2002: 8)

認知言語学の基本的な考え方

(辻 2003 第3章)

1. 「認知」のメカニズム

図と地; ゲシュタルト知覚; イメージ・スキーマ; 参照点能力

2. 認知と言語表現

概念領域; 抽象概念; スキーマ、スクリプト、ステレオタイプ

3. カテゴリー化

基本レベル効果; 段階性カテゴリー; プロトタイプ効果

4. 多義の類型

分類の原理

例えば...

<する>的な言語(DO language)と
<なる>的な言語(BECOME language)

(池上嘉彦1981,1982)

- 日本語と英語の相違を元に、言語全体の性質に関する類型論を提案
- 名詞、動詞など広範囲をカバー
- 中国語は<する>的な特徴と<なる>的な特徴が混在している

動作主における差異

- <する> 的な言語：英語

出来事に関与して動作主 (agent) として行動する人間に注目し、それを際立たせるような形で表現を構成する傾向のある言語

Ten persons were killed in the war.

- <なる> 的な言語：日本語

出来事を全体として捉え、そこに動作主として人間が関与していてもなるべくそれを際立たせないような形で表現を構成する傾向のある言語

10人が戦争で死んだ。

＜する＞と＜なる＞の類型論

- 言語表現の背後にある事物の認識パターンを重視＝認知意味論的
- 言語的な類型と文化的な類型の並行性を指摘＝相対性？

意味の拡張： メタファー/シネクドキー/メトニミー

- 比喩と認知能力の関係
 - 意味拡張：ある語において従来とは異なる新たな意味が派生すること
 - 新たな意味がどのような仕組みによって生じるのかを探る
 - メタファー/シネクドキー/メトニミー

概念メタファー

Lakoff, Johnson, etc.

- メタファー: ある概念を別の概念と関連付けることによって、一方を他方で理解するという認知プロセス
- 概念メタファー: (具体的な)概念と(抽象的な)概念との間の対応関係
 - 例)
 - LOVE IS A JOURNEY
 - HAPPY IS UP; SAD IS DOWN

概念メタファーの特徴

- ① 経験間の対応関係から生まれる
- ② 意味拡張は無意識に行われる
- ③ 人間共通の感覚器官だから概念メタファーも共通して認識されうる

マッピング

起点領域 → 目標領域
JOURNEY LOVE

日本認知言語学会第14回全国大会

普遍性と相対性の度合い？

ワークショップのテーマ：

1. 場の理論と日本語の文法現象
2. 百科事典的意味観の射程
3. 会話の中の文法と認知—相互行為言語学のアプローチ—
4. 認知における二元性：言語を中心とした学際的視点
5. Corpus-based approaches to English adjectives: Meaning, grammar, and sound
6. 認知文法における事態叙述の在り方—「事態」をどのように概念化するか—

参考文献

- Barsalou, Lawrence, W. (1985) Ideals, central tendency, and frequency of instantiation as a determinants of graded structure in categories. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition* 11: 629-654.
- Berlin, Brent & P. Kay (1969) *Basic Color Terms: Their Universality and Evolution*. University of California Press.
- Bowerman, Melissa & S. C. Levinson eds. (2001) *Language Acquisition and Conceptual Development*. Cambridge University Press.
- Conklin, Harold C. (1973) "Color Categorization" (Review of Basic Color Terms: Their Universality and Evolution, by B. Berlin & P. Kay). *American Anthropologist*, 75: 931-942.
- Dougherty, Janet (1985) *Directions in Cognitive Anthropology*. University of Illinois Press.
- Duranti, Alessandro. (1997) *Linguistic Anthropology*. Cambridge University Press.
- Evans, Ralph M. (1948) *Introduction to Color*. New York: John Wiley.
- Everett, Daniel L. (2008) *Don't Sleep, There Are Snakes: Life and Language in the Amazonian Jungle*. New York: Pantheon Books.
- Foley, William (1997) *Anthropological Linguistics*. Blackwell.

- Gumperz, John J. & S. C. Levinson eds., (1996) *Rethinking Linguistic Relativity*. Cambridge University Press.
- Guo, Jiansheng et al. eds. (2009) *Crosslinguistic Approaches to the Psychology of Language: Research in the Tradition of Dan Isaac Slobin*. New York: Psychology Press.
- Hickerson, Nancy (1999) *Linguistic Anthropology, 2nd ed.* Wadsworth Pub Co.
- Kay, Paul & W. Kempton (1984) “What is the Sapir-Whorf Hypothesis?” *American Anthropologist* 86 (1).
- Lakoff, George, and Mark Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: The University of Chicago Press. [渡部昇一他訳 (1986) 『レトリックと人生』大修館書店]
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire and Dangerous Things: What Categories Reveal about Mind*. Chicago: U. of Chicago Press. (『認知意味論』紀伊国屋書店)
- Lakoff, George (1993) “The Contemporary Theory of Metaphor,” In Andrew Ortony (ed.), *Metaphor and Thought 2nd ed.*, pp. 202-251. Cambridge University Press.
- Leach, Edmund (1964) “Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse,” In Lenneberg, E. (ed.), *New Directions in the Study of Language*, pp. 23-63. MIT Press.

- Lee, Dorothy. (1959) *Freedom and Culture*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.
- Levinson, Stephen. C. (2003) *Space in Language and Cognition*, Cambridge University Press.
- Lounsbury, John F. (1964) "A Formal Account of the Crow- and Omaha-Type Kinship Terminologies," In W. H. Goodenough (ed.), *Explorations in Cultural Anthropology*, N.Y.: McGraw-Hill.
- Lucy, John (1992a) *Grammatical Categories and Cognition*. Cambridge University Press.
- Lucy, John (1992b) *Language Diversity and Thought*. Cambridge University Press.
- Pederson, Eric, E. Danziger, D. Wilkins, S. Levinson, S. Kita, and G. Senft (1998) "Semantic Typology and Spatial Conceptualization." *Language* 74: 557-89.
- Pinker, Steven. (1994) *The Language Instinct: How the Mind Creates Language*. New York: Harper Perennial Modern Classics.
- Rosch, Eleanor (1974) "Linguistic Relativity," In A. Silverstein (ed.), *Human Communication: Theoretical Explorations*, Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates.
- Salzmann, Zdenek (2003) *Language, Culture, and Society: An Introduction to Linguistic Anthropology*, 3rd ed. Westview Press.
- Talmy, Leonard (1983) "How Language Structures Space," In Herbert L. Pick, Jr. and Linda P. Acredolo (eds.), *Spatial Orientation: Theory, Research and Application*, pp. 255-282. New York: Plenum Press.

Taylor, John R. (2003) 『認知言語学のための14章』(辻幸夫訳[2008]) 紀伊國屋書店
Tomasello, Michael (1999) *The Cultural Origins of Human Cognition*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.

Wierzbicka, Anna (1985) *Lexicography and Conceptual Analysis*. Ann Arbor, Mich.: Karoma.

Wierzbicka, Anna (1990) “The Meaning of Color Terms: Semantics, Culture, and Cognition.” *Cognitive Linguistics* 1:99-150.

B. L. ウォーフ(1956)『言語・思考・現実』(池上嘉彦訳[1978]) 弘文堂

E. サピア、B. L. ウォーフ他著『文化人類学と言語学』(池上嘉彦訳 [1970]) 弘文堂

池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジーへの試論』
大修館書店

池上嘉彦 (1982) 『ことばの詩学』岩波書店

石田英一郎 (1976)『文化人類学入門』講談社

井上京子 (1998)『もし「右」や「左」がなかったら – 言語人類学への招待』大修館書店

井上京子(2002)「絶対と相対の狭間で：空間指示枠によるコミュニケーション」 大堀

壽夫(編)『認知言語学II:カテゴリー化』東京大学出版会 pp11-35

井上京子 (2005)「空間認知とコミュニケーション」井出祥子・平賀正子(編)『講座社会言語科学1 異文化とコミュニケーション』ひつじ書房pp.118-128.

井上京子・ジェームズ スタンロー (1994)「サピア」再入門5『月刊言語』23(5)

江淵一公 (1994)「文化相対主義」石川栄吉他(編)『文化人類学事典』弘文堂pp.671-672.

大堀壽夫(2002)『認知言語学』東京大学出版会

喜多壮太郎 (2002)『ジェスチャー:考えるからだ』金子書房

辻幸夫 (2003)『認知言語学への招待』大修館書店

唐須教光 (1988)『文化の言語学』勁草書房.

斗鬼正一 (2003)『目からウロコの文化人類学入門』ミネルヴァ書房

中島平三 & 外池滋生編著 (1994)『言語学への招待』大修館書店

福井勝義 (1991)『認識と文化:色と模様民族誌』東京大学出版会

藤田耕司 & 岡ノ谷一夫編 (2012)『進化言語学の構築』ひつじ書房

巻下吉夫・瀬戸賢一 (1997)『文化と発想とレトリック』

松本曜編 (2003)『認知意味論』大修館書店

光延明洋 (1991)「言語と文化」、村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』有斐閣.

光延明洋(1996)「言語相対論」宮岡伯人編『言語人類学を学ぶ人のために』世界思想社

宮岡伯人編 (1996)『言語人類学を学ぶ人のために』世界思想社.

三宅美博 (2004)「科学における存在の問題」『認知科学』11(1): 1-2

山梨正明 (2001)「ことばの科学の認知言語学的シナリオ」『認知言語学論考』ひつじ書房

米山俊直 (1968)『文化人類学の考え方』講談社現代新書

レイコフ&ジョンソン (1980)『レトリックと人生』(渡部昇一他訳)大修館書店

レヴィ=ストロース、クロード (1958)『構造人類学』(荒川幾男訳 [1972]) みすず書房